

会 議 録 (概要)

会議の名称	平成 28 年度 第 2 回佐渡市特別職報酬等審議会
開催日時	平成 29 年 2 月 1 日 (水) 13 時 55 分開会 15 時 30 分閉会
場所	金井コミュニティセンター 2 階 大会議室
議題	(1)市議会の議員の議員報酬の額 (2)市長及び副市長の給料の額 (3)市議会の会派及び議員の政務活動費の額
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	非公開 (佐渡市情報公開条例第 7 条第 5 号に該当するため)
出席者	委員 会 長 本間 進治 会長職務代理者 石井 裕子 委 員 丸山 憲一 (金融機関代表) 委 員 渡邊 武司 (商工業代表) 委 員 前田 秋晴 (農林業代表) 委 員 氏江 亮 委 員 加藤マサエ 委 員 中川奈保子 事務局 総務課 課 長 渡邊 裕次 課 長 補 佐 甲斐由紀夫 人事係調査員 桑崎 徳彰 人事係主任 磯野 靖行
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0 人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
事務局渡邊課長	あいさつ
本間会長	開会のあいさつ～第1回審議会の概略説明 (1) 議員報酬は市長及び副市長と同じ率で戻す。 (2) 市長副市長の給料は据置く。 (3) 政務活動費の額は据置く。 (4) 特別職の12月期末手当支給月数を0.1月引き上げる。
事務局甲斐補佐	平成28年12月議会での特別職の期末手当改正採決の経過説明
本間会長	議会の真意はわからないが、この審議会はあるべき形で審議し、答申につなげていく。 審議に入る前に事務局に求めた資料説明をお願いしたい。前回宿題になっていた平成20年度の副市長の給与改定率が-10%についても併せて説明をお願いしたい。
事務局桑崎調査員	・平成20年度副市長の給与改定率が-10%である理由説明 前回の会議で質問のあった平成20年度の副市長給料改定が-10%と大きい理由はおそらく、他市と比べて副市長の給料月額が高いため、マイナスの幅が市長や議員と比べて大きくなったのではないかと考える。 ・平成29年1月31日時点での県内他市の審議会開催状況説明 20市のうち10市が開催済み。今後開催6市、予定なし・未定が4市となっている。予定なし・未定となっている市は据置きという考えのため開催しないとなっている。これらの状況を踏まえると、引上げが4市、据置きが10市となっている。 引上げ答申の理由として、これまで長期にわたり据置きが続けてきたこと、県内他市と比べて低水準にあること、議員報酬については、意欲ある若い人の立候補を促すためなどが挙げられている。 据置き答申の理由として、地域の経済情勢や県内他市と比較して引き上げる段階になく据置きが適当であるなどが挙げられている。 事務局の説明について質問はあるか。質問がないため審議を進める。
本間会長	
本間会長	(1) 市議会の議員の議員報酬の額 前回は昨年度の市長・副市長と同じ率に戻すべきという審議会とし

	<p>ての趣旨だった。</p> <p>佐渡市の議員報酬は他市と比べて低く、人口規模でも報酬が県内最下位ではどうかという気がする。しばらく据え置いて議会改革による定数減を機会として引き上げたらどうかという意見もあった。多くの方が議員に手を挙げるような条件整備としての報酬を考えていきたい。</p>
氏江委員	<p>前は0.3%引上げに賛同した。0.3%が小刻みすぎだと思うが、今は大きく引き上げる時期ではない。新入社員でももう少し上がると思うため変化があったタイミングで、1,000円単位で引き上げる。</p>
加藤委員	<p>前は改選のときに引き上げると考えていた。0.3%、800円では少額であるため、せめて2,000円前後上がれば実感し議員も頑張ろうという気持ちになると思う。審議会としても議員に頑張ってもらいたい。据置きのまま4年間ということではなく、どこかで区切りを決めて、2,000円前後引き上げる方向がいい。</p>
中川委員	<p>佐渡市の議員報酬は他市と比べて低いため、800円だけ引き上げてどうなのか。ただ、議員だけ他市のように2%程度上げて市長・副市長はそのままというのどうか。議員は平成22年度から上がっていないため0.3%でも引き上げて、4年後にもまた引き上げるといってもいい。今回急に2,000~3,000円引き上げると市長・副市長とのバランスが取れない。</p>
石井会長職務代理者	<p>佐渡市は他市と比べて決して高くはない。0.3%以上引き上げるといえる意見には賛成。800円では少ないという意見もあるが、少しずつ積み重ねがあったほうが議員にとってもいいかと思う。</p>
丸山委員	<p>前回と同様0.3%の引上げがいい。昨年度答申通り上がっていれば今年度は据置きがいいと思っていた。昨年度市長・副市長が0.3%上がっているため、同じように今回引き上げたほうがいい。0.3%の800円が少ないという意見はもっともだが、0.3%を超える率で引き上げると昨年度とのバランスが崩れるため、0.3%の引上げでいい。議員が上げなくていいと言うのは、佐渡市の経済に対する危機感が強く、厳しい目で見ているということだと思うが、審議会は審議会としての意見を述べるべきだ。</p>
渡邊委員	<p>日本全体が給料を上げようという雰囲気があり、期待されている。金額で見ると800円だが今年度はこの金額で引き上げて、一気にではなく来年度も様子を見ながら徐々に引き上げる方向性を見せる。</p>
前田委員	<p>昨年度も発言したが、全国のごく一部の都市を除いて経済の低迷がある。経済低迷時にこそ全員が頑張ればよいということにはならない。志のある人に職責をしっかりと担ってもらうためには報酬を適正に支払うべき。0.3%引上げでは足りず、少なくとも県下最低レベ</p>

<p>本間会長</p>	<p>ルを脱するような気持ちで、もう少し引き上げるべき。</p> <p>意見をまとめると、佐渡市の人口規模は県内最低水準ではないため、引き上げることについては賛同するが、時期的なもの、引上げ率等を気にしている。800円では少ないという意見、昨年度市長・副市長の給料が上がった率と同じ0.3%を議員も上げてほしいという趣旨で前回まとめた流れに沿う意見が多かった。今回は0.3%引き上げて、また引き上げてはどうかという意見も出た。今回はこれらを踏まえて、前回示したように市長・副市長と同じ率に戻すという意見にしたい。</p> <p>来年度議会改革等の状況を見て、さらなる大きな引上げを行うという流れで、佐渡市が一番低位に位置するのではなく、積極的な行政運営を担う議員としてふさわしい報酬額としたい。このことを審議会として目指すべきと考える。まず議員と市長・副市長を合わせて同じスタートラインに立ったうえで、今後の報酬を上乗せするかどうか判断したい。</p>
<p>前田委員</p>	<p>0.3%という定率では額の高いと低い人とでは差が開く一方で、むしろ率に相当する以上の定額で引き上げていくべきではないか。</p> <p>確認だが、昨年度、議員は0.3%引き上げていないということか。</p>
<p>本間会長</p>	<p>引き上げていない。昨年度の市長・副市長0.3%引上げに合わせたという趣旨。0.3%引き上げたうえで100円単位にする。佐渡市の人口規模や経済規模等にふさわしい報酬を目指すべき。</p> <p>それでは(1)市議会の議員の議員報酬の額については、前回の審議の流れ、今回の考え方を集約した結果、0.3%引上げを答申する。</p> <p>付帯意見として、昨年度の市長・副市長の引上げ率に合わせるのが基本であるという考え方が主流であったということである。</p>
<p>前田委員</p>	<p>結論としてみなさんの意見には従うが、特にこれから頑張ってもらわなければならない若手の議員が報酬等だけでは生活していけない現実を何とかしないとイケない。0.3%という率は極めて明確明快だが、議員報酬の底上げをするためには定額での引上げ、最低でも1,000円くらい引き上げないと引き上げたことにならない。昨年度却下されたため今年度引き上げるという意向は非常によくわかるが、800円という額が妥当なのか。800円とは別にもう少し上げるべき。</p>
<p>本間会長</p>	<p>率というのは平等に引き上げたという感触を得たいために用いている。議長・副議長・議員それぞれ額を決めるという方法もある。</p>
<p>前田委員</p>	<p>0.3%引上げを基本的に決めることは結構である。0.3%を基本としたうえで1,000円単位になるように、議員1,000円・副議長1,100円・議長1,300円引き上げるとすることにすべきではないか。</p>

本間会長 石井会長職務代理者	今の提案について、みなさんにもう一度伺いたい。 私が先ほど 0.3%以上と発言したのは、若手の議員が誕生したにもかかわらず 800 円でも上がらないよりはいいということ。議員のモチベーションを引き上げてもっと活躍してほしいと思う。
丸山委員	経済状況等を考えて今年度据置きにしている市も多い。昨年度の審議会では個人的には佐渡市の経済状況を見ると引き上げるのはいかなものかという意見だったが、審議会として 0.3%引上げの答申となった。それは少しでも引き上げて議員に期待しているということ伝えたいという審議会の意見で、個人的な意見は違ったが、審議会としては賛同した。800 円は少ないが、今年の経済状況が去年と比べてむしろ悪くなっている。昨年度の答申を議員に反映できなかったということもあり、0.3%引き上げるとい話をした。逆にもっと引き上げたほうがいいのかもわからないが、今年度は 0.3%引上げにして、来年度経済状況を見て審議会で審議をすればいい。一回で大きく引き上げる必要はない。
事務局甲斐補佐	総論引上げということだと思うが、いくら引き上げるかは経済情勢と全く違う視点でないとダメ。その1つの要素として変化があったときという発言が氏江委員からあった。経済情勢は引上げの尺度としては難しいので、1つの変化として、例えば議会改革特別委員会で今後の議員定数をどうしていくのかなど色々な要素を見据える必要がある。事務局からもある程度の資料を出さないと、何もなくみなさんで決めてくださいというのは難しいと思う。引上げの具体的な額は次回に回して、議会改革の答申を見ながら変化のあったときに審議するというのでいいか。
本間会長 事務局渡邊課長 事務局甲斐補佐	議会改革特別委員会の答申はいつ出る予定か。 今年の3月末までには出る予定。 改選は平成32年で、そのときは様々な思惑があると思う。そのため2年前の平成30年あたりがいいのではないかな。
本間会長	事務局の発言のとおり、具体的な額や率については白紙になると難しい問題だ。拠り所として他市の状況等を見ることが1つの方法だと思う。
中川委員	昨年より今年のほうが仕事はない、経済的に厳しいと周りから聞いている。800 円くらいであれば据置きでいいと思うが、私たちの気持ち、答申として引き上げるとい方向を伝えればいい。
加藤委員	800 円引上げでは少ないと先ほどまで思っていたが、少ないが 0.3%引き上げることで市長・副市長と足並みを揃えるのがいい。
氏江委員	タイミングを見計らって引き上げるほうが、投資効果があると思う。0.3%に大反対というわけではない。

渡邊委員	商売をやっている昨年より景気がいいかといえばそうでもない。月額 800 円でも 1 人分というわけではない。昨年度は 800 円引上げで答申したが、毎年少しずつ引き上げていくという方向性を見せるという気持ちが私にはあった。市長・副市長に合わせて 0.3% 引上げがいいのかは何とも言えない。
本間会長	今回は 0.3% 引上げという答申にし、議会改革特別委員会の答申を踏まえて来年については積極的に引き上げるような考え方で進める。それを踏まえて来年につなげて活かしていただきたいという考え方でどうか。
事務局渡邊課長 事務局甲斐補佐	もう一度確認したい。 みなさんの意見を総括すると、経済情勢を考えるとなかなか引上げは難しい。しかしながら、今後の議員に対する職責への期待や若手の議員の活躍を期待することを考慮すると引き上げることが望ましい。具体的な額については次回に回し、今回は他の特別職の報酬と均衡を一にするための改正として 0.3% の引上げを答申するという内容でいいか。
本間会長	よい。
本間会長	(2) 市長及び副市長の給料の額 前回の考え方では据置きという意見であった。。 こちらも具体的な数字は難しいかもしれないが、昨年度は 0.3% 引き上げている。したがって先ほどの均衡という趣旨からすると据置きとなる。据置きでいいか。
複数の委員	賛成
本間会長	据置きで答申する。
本間会長 複数の委員	(3) 市議会の会派及び議員の政務活動費の額 前回、現在の 1 万円で据置きという考え方が示された。 据置きでよい。
本間会長	前回の発言のとおり 1 万円据置きで答申する。
事務局渡邊課長	以上で本日の議題は終了した。事務局から何かあるか。 答申案の内容、文言を確認していただきたい。
出席者全員	答申案確認～了承
石井会長職務代理	閉会のあいさつ